

じゅしゅう

永代経法要厳修

十月十七日(土) 十四時・

十九時の二座にわたって、秋の法要である「永代経法要」をおつとめ致しました。

感染防止対策として、消毒・検温・問診をした上で本堂へ入っていただきました。また、三密を避けるため、堂内の座席数も通常の半分とし、境内にもテントとイスを配置して対応することになりました。



さて、当日は朝から雨が降り続き、肌寒い一日となりましたが、境内から参拝して下さる方や換気のために扉が閉められず、寒い思いをさせていただきました。

けれど、朗々としたおつとめと、熱のこもったご法話があり、心は温かくなられたかと思えます。

この度のご講師は、奈良県生駒市より藤本文隆先生



第19号
(通算359号)

発行元
浄土真宗本願寺派
吉富山 浄覚寺
大阪市平野区
長吉長原3-1-10
06-6790-8350

です。初めて当山にご出講いただきました。ご讚題は親鸞聖人の浄土和讃より「十方微塵世界の、念仏の衆生をみそなはし、摂取してすてざれば、阿弥陀となづけたてまつる」。現代語訳としては「十方に塵の数ほどもある無数の世界に住む、念仏の衆生をことごとくご覧になって、大慈大悲の光明の中に摂め取って決して見捨てたまうことがない。それゆえ阿弥陀仏と名づけたてまつるのである。」わざわざレジメをお持ちいただき、なじみのない仏教用語には解説を加えていただきました。耳で聞いて目で確認ができる、とてもわかりやすかったです。話しの中には「摂取不捨」という阿弥陀さまのお心です。阿弥陀さまは私のこと

今月のクイズ

・浄覚寺(浄土真宗)のご本尊は阿弥陀如来のお木像です。少しだけ前に傾いているのですが、それはなぜでしょうか?

・正解は次号にて。



をしつかりと手の内に摂め取って離すことはないですよと仰います。それはずっと前から「今・ここ・私」に働いておられることですが、なかなか気づくことができない私でもあります。でも、だからこそ放っておけないこの阿弥陀さま。私がかどの誰なのか自分ではわからなくなる日が来ても、思い詰めるなどして私が私を見捨てたくなっても、いつも私の傍に寄り添い続けて下さるのが阿弥陀さまでありました。

一々の光明は

あまねく

十方世界を照らし

念仏の衆生を

摂取して

捨てたまはず

《仏説観無量壽經》



御文章に聞く(第16回)

参考文献：『御文章 ひらがな版を読む』 天岸淨圓著 本願寺出版社

いまの世章(四帖第十通)

今の世にあらん女人は・みなみなこころを一つにして・阿弥陀如来をふかくたのみたてまつるべし、そのほかには・いずれの法を信ずというとも・後生のたすかるということ・ゆめゆめあるべからずとおもうべし、

今回も御文章(蓮如上人からのお手紙)を味わっていききたいと思えます。

今月からは「いまの世章」という次の御文章を読んでまいりましょう。ちなみに、この章の最後には蓮如上人が八十三歳であると記載があり、明応六(一四九七)年に書かれたお手紙であることがわかっています。

まずは大意からお伝えします。「いまの時代の女性は、みなこころを

安居

サンスクリット語で雨季を意味する「ヴァルシヤ」を漢訳した語。インドでは雨季になると草木が生い繁り、虫や小動物の活動が活発になるため、うっかり踏んで無用な殺生をしないように、修行者達は一か所に集まって修行するようになった。現在、日本にも安居は各宗派で行われている。

『気になる仏教語辞典』 著・麻田弘潤 誠文堂新光社
仏教にまつわる用語をイラストとわかりやすい言葉で読み解かれています。ぜひお買い求めください。

一つにして、深く阿弥陀仏を信ずべきであります。この阿弥陀仏の教えのほかに、どの教えによっても、後生のたすかることはありません。」

このお手紙を読ませていただくときには気をつけたいといけません。冒頭から女性に特化した内容となっており、これは女性だからと差別をしているのではなく、蓮如上人の時代、いやそれ以前も、それ以後にも、女性だからというだけで差別を受けてこられた歴史があります。

修行に女性は邪魔になるという理由で女人禁制の山があったように、仏法を聞くことすら許されない時代もありました。阿弥陀さまは女性であろうが男性であろうが平等に救おうと働かれています。「いまの時代の女性は」という部分は「どんな時代でも私は」と読み替えても良いのかもしれないね。

編集後記

今月も「じゅこう」をお届け致します。
Tシャツなどに多いと思いますが、F(フリー)サイズというものがありません。フリーなので誰でも着られるサイズかと思いきや、多くの人が着ることができず、あるいは着られない人が着ることもできません。無理をしないと着られない人や、着ることができない人もいます。
阿弥陀さまは一切衆生(全てのいのち)を撰取不捨(もたらすことなく救い取る)と働かれておられます。これは服に合わせて体を変えなさいというのではなく、私に合わせたオーダーメイドの服をしつらえて、どうぞ暖かいから着てほしいですと届けていたことなんでしょう。お慈悲のぬくもりに気づかせていただきます。(釋法道)



12月20日(日) ごとも会冬のことい
開催可能かどうかの判断は来月号で
お知らせ致します

行事案内

お配りしている年間行事表には、津村別院と頭寺の報告を予定しております。しつこくお話しをさせていただきます。ご報告の準備ができていない場合は、お断りさせていただきます。ご報告の準備ができていない場合は、お断りさせていただきます。ご報告の準備ができていない場合は、お断りさせていただきます。

